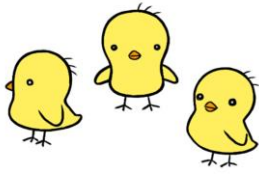


# ひよこだより



東京都立大塚ろう学校  
乳幼児教育相談  
令和元年 7 月 No.4

## 実体験を活かして～体験本作り～

だんだんと眩しくなる日差しに夏の到来を感じます。もうすぐ夏休み、あっという間に過ぎていった4、5、6月、ひよこぐみのグループ活動ではバナナジュース作り、こいのぼり作り、園庭遊び、梅ジュース作り、誕生会、ボディペイントなど…、親子で様々な体験をしてきました。

7月下旬から始まる夏休みには、夏ならではの体験をたくさんさせてあげたいものです。夏といえば、海や磯での遊び、山や野原での虫取り、お祭り、花火大会など楽しいことがたくさん思い浮かびます。また、飛行機やフェリーなどいろいろな乗り物に乗ってお出かけしたり、普段なかなか会えない親戚と過ごしたりするお友達もいるのではないのでしょうか。

さて、せっかくの経験を「生きた言葉を育てる」ことに活かさない手はありません。実体験をすることによって、子供たちは様々なイメージ(心に思い浮かべる像や情景。ある物事についていただく全体的な感じ。)をもつことができます。イメージがもてるようになると、それがどのような物・事柄なのかをつかみ、それについて伝えたい・やりとりしたくなるというように、実体験は言葉やコミュニケーションに深く関わっているのです。例えば、夏ならではの海水浴では、海の色、波の様子、足や手をつけたときの感覚や海水のしょっぱさ、砂の感触などのイメージが子供の中に刻まれます。写真カードでは伝わりきらない「海」に関する様々な情報が、実体験によってイメージ形成されていくのです。きっと、この時、「わあ、海の水は冷たいね。」「ザブーン！波が来たね。また来るかな？」「砂浜は熱いね、あちち！サンダルを履こう。」など、お母さん・お父さんは、それぞれのお子さんに合わせた言葉がけをされていることと思います。これはとても大切なことですが、乳幼児期は、実体験の場では五感を存分にはたらかせることに夢中で、大人の言葉がけを受け止め損ねていることも多いです。

そこで、実体験した後の振り返りや再現あそびが重要になってきます。落ち着いた場面で、写真や絵カードを見返して話したり、海に関する絵本を読んだり、海水浴ごっこをしたりと、体験を想起する関わりが大切です。特に「体験本」作りは、おすすめしたいことのひとつです。自分が体験したことが写真や絵で時系列に並び、振り返りや再現遊びのきっかけにもってこいです。何より、自分が主人公の世界でたった一つの絵本に、子供たちはとても興味をもち、それは喜んで絵本がクタクタになるまで何度も読んでくれます。さらに翌年以降、同じ体験を繰り返すときには、事前に読んで「前は〇〇だったね。今年はどうでしょうか？」などと、親子のやりとりに活用できるのです。

早速、この夏「体験本」を作ってみませんか？素材は、画用紙やアルバムなど自由です。紙をラミネートして作る方もいらっしゃいます。大きさは、お子さんが手にしてページをめくりやすいサイズが良いでしょう。そして、ポイントはそれぞれのお子さんのに合わせて、1ページに載せる情報量を調節することです。1歳児さんであれば、1ページに一つの事柄だけを載せることで、何に注目すると良いのかをはっきりさせてあげると良いでしょう。文字や指文字に興味をもち始めた2歳児さんであれば、写真の横に一番ポイントとなる物・事柄の名称を添えてあげるのも良いでしょう。

ひよこぐみを修了した保護者の皆様が、お子さんのために作った体験本を貸していただきましたので、御紹介します。



噴水遊びのこと

カブトムシのこと

#### 【Rちゃんのお母さん作:1歳児・夏の体験本】

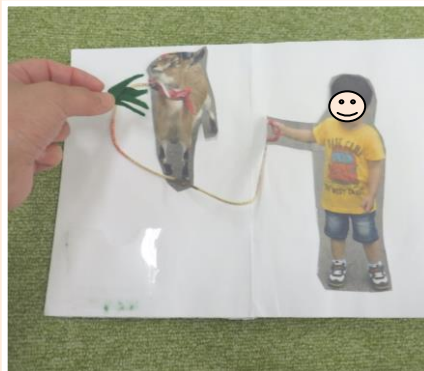
おじいちゃん・おばあちゃん・親戚と夏らしい遊びをたくさんしたことを、体験本にしてくださいました。1ページには一つの事柄だけ載せることで、大事な情報は何か、1歳児さんにも捉えやすくなりますね。

また、紙をラミネートして製本してあり、しっかりしたつくりなので、お子さんが何度ページをめくっても大丈夫ですね。

#### 【Yちゃんのお母さん作:1歳児・夏の体験本】

夏に触れ合った動物や虫のことを体験本にまとめてくださいました。なんと、体験本の中でもヤギの散歩や餌やりができた、虫を動かして遊べたりと楽しい仕掛けをたくさん作ってくださいました。

親子で体験本を読んで思い出を振り返るときも、やりとりが弾みますね。



上の部分は旅行前に作り、あえて空けておいた下の部分は旅行後に写真を貼ったそうです。

左ページは、思い出の写真です。それぞれの思い出の違いも楽しむことができますね。



#### 【Aちゃん御家族作:2歳児・旅行のしおり】

旅行の前にしおりを作ることで、見通しをもたせるとともに、旅への期待感を高めることができますね。Aちゃんとお姉ちゃんも参加して、家族4人分のしおりを係分担して作ったそうです。

旅行の後には、下のスペースに思い出の写真を貼って、体験本としても使ったとのこと、素晴らしいアイデアですね。「楽しかったこと」のページは、一人一人が思い出の写真を選んだそうです。

「イメージのないところに真の言葉は育たない」ということが言われます。絵カードや写真カードで語彙数のみを増やしても、それらについてイメージをもつことは、まだ乳幼児期には難しく、その物・事柄について実際に関わる実体験がなければ、真の理解は得られません。成長し、その物・事柄を言語で説明しようという時期がきたとき、名称だけ知っていても自らの言葉で語ることはできません。やはり実体験をして、体験本などでの振り返りや再現遊びを工夫して、生きた言葉につなげることを、年齢が小さければ小さいほど大切にしてください。旅行やお出かけではもちろん、何気ない家庭生活の中でも夏らしい体験は様々にできそうです。お父さん・お母さん御自身も楽しみながら、生きた言葉に通じる物・事柄に敏感になり、御家族で夏の実体験をたくさん積んでください。9月に御土産話をうかがうことを楽しみにしています。(文責：神谷)